

CSA-JC ビッグデータユーザーワーキンググループ 設置企画書 v3

(1) 起案者、ワーキンググループリーダー（起案者と異なる場合）の所属、氏名、連絡先

起案者・ワーキンググループ共同リーダー

笹原英司 (esasahara@cloudsecurityalliance.jp)

特定非営利活動法人ヘルスケアクラウド研究会

ワーキンググループ共同リーダー

小野寺 正

デロイト トーマツ リスクサービス株式会社

(2) ワーキンググループの名称

CSA-JC ビッグデータユーザーワーキンググループ

(3) ワーキンググループの目的

CSA-JC ビッグデータユーザーワーキンググループは、CSA グローバルの Big Data Working Group の活動に準拠して、データ中心の視点から、エンドユーザー向けに、ビッグデータにおけるセキュリティ／プライバシー保護を支援するための基本的な調査研究を提供し、ビッグデータ環境のクラウドセキュリティに関する啓発活動を推進することを目的とする。具体的な活動に際しては、一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンスにおける各ワーキンググループおよびその他のイニシアティブとの連携を図るものとする。

(4) ワーキンググループの設置理由・背景等

【参考】 CSA グローバルの Big Data Working Group の過去の活動実績：

・2012年11月：ビッグデータのセキュリティ／プライバシーにおける技術的／組織的問題10項目をまとめた「Top 10 Big Data Security and Privacy Challenges」を公表

・2013年6月：サイバー攻撃、データ漏えいのシナリオなどを包含する脅威モデルを形式化する「モデリング」、脅威モデルに基づいて扱いやすいソリューションを見つける「分析」、既存のインフラにソリューションを埋め込む「導入」の視点から拡張／整理した「Expanded Top Ten Big Data Security & Privacy Challenges」を公表

・2013年9月：大量の構造化／非構造化データを活用した新しいツール／機会の導入／利用拡大によって変化するセキュリティ分析の動向を整理した「Big Data Analytics For Security Intelligence」を公表

- ・2014年3月：ビッグデータに要求される暗号化技術について整理した「Top Ten Challenges in Cryptography for Big Data」を公表
- ・2014年4月：米国政府の情報提供依頼書（RFI）」に呼応して、エンタープライズ市場のユーザー企業／サービスプロバイダーの視点からの意見書として「Comment on Big Data and the Future of Privacy」を公表・提出
- ・2014年5月：プライバシー保護の観点から、米国政府のビッグデータ戦略の方向性について考察した「Big Data, Big Concerns, and What the White House Wants to Do about It」を公表
- ・2014年9月：ビッグデータの定義および分類について整理した「Big Data Taxonomy」を公表
- ・2015年9月：米国立標準技術研究所（NIST）ビッグデータ公開ワーキンググループ（NBD-PWG）の「NIST Big Data Interoperability Framework V1.0（NIST.SP.1500-1, 1500-2, 1500-3, 1500-4, 1500-5, 1500-6, 1500-7）」策定作業に参加し、最終成果物を公開

(5) ワーキンググループの調査研究対象範囲または対象とする項目

本ワーキンググループは、CSAグローバルのBig Data Working Groupの活動に準じて、以下の領域を研究対象とする。

- ・ビッグデータのためのリスク／脅威モデル
- ・セキュリティインテリジェンス（悪意のある活動の特定）のためのビッグデータ分析と状況認識（システムの健全性の理解）
 - ・ビッグデータセキュリティ・サイエンス
 - ・データ志向の悪用検知
 - ・大規模分析
 - ・ストーリーミングデータ分析
- ・パフォーマンス、拡張性、可用性のために元々開発された技術／フレームワーク（例. Apache Hadoop, Apache Spark, NoSQL, MPP データベースなど）のレビュー
- ・ビッグデータ導入のセキュリティ／プライバシーにおけるソーシャルデータ革命の影響
- ・データアクセス／制御のための柔軟なポリシー管理
- ・セキュアなデータ保存
 - ・通信プロトコル
 - ・攻撃対象領域の緩和策（ASR）
- ・クラウド上のどこに保存／アクセスされるかに関わらずデータを保護するためのデータ中心のセキュリティ（例. 属性ベース暗号、オペレーション保護暗号化など）

- ・ビッグデータのプライバシーとガバナンス
 - ・データディスカバリーと分類
 - ・データマスキング技術（例. 匿名化、丸み付け、打ち切り、ハッシュ化、難読化、差分プライバシーなど）
 - ・データモニタリング
 - ・HIPAA 規制、EU データ保護規則 (GDPR)、APEC 越境プライバシールール (CBPR) の要求事項および各国固有の規制
 - ・政府機関のデータアクセスと表現の自由の問題
 - ・潜在的に意図しない／不要な結果または利用
- ・鍵管理とデータの所有権、データ所有者に対する完全な鍵管理の提供
- ・データの完全性とポイズニングの問題
- ・暗号化されたデータ上での計算処理（例. 再識別化、検索、レポートニングなど）
- ・高可用性
- ・セキュアなデータ集約
- ・ビッグデータインフラストラクチャのセキュリティ
- ・イベント検知
- ・分析結果のセキュリティ
- ・ビッグデータと接続するシステムのセキュリティとプライバシー

(6) ワーキンググループの目標成果物

- ・ CSA グローバルの Big Data Working Group が公表しているドキュメント類の日本語版および説明資料（成果物は、CSA グローバルおよび日本クラウドセキュリティアライアンスの著作権ポリシーに準拠して管理される）。

【参考】 CSA Big Data Working Group の公表ドキュメント類で日本語化したもの

- ・ 2014 年 1 月：「*Top 10 Big Data Security and Privacy Challenges*」（2012 年 11 月）
- ・ 2014 年 5 月：「*Expanded Top Ten Big Data Security & Privacy Challenges*」（2013 年 6 月）
- ・ 2014 年 5 月：「*Comment on Big Data and the Future of Privacy*」（2014 年 4 月）
- ・ 2014 年 12 月：「*Big Data Taxonomy*」（2014 年 9 月）

(7) 予定するメンバーリスト・対象等

活動期間中、日本クラウドセキュリティアライアンスの会員および Cloud Security Alliance の LinkedIn 登録メンバーで、ビッグデータ分野のクラウドセキュリティに関心のあるエンドユーザー等（例. エンジニアリング IT、マーケティング IT、コーポレート IT、パブリックセクター、アカデミアなど）から随時ボランティアを募る。

(8) **活動費用**

原則として、会場費、資料作成費、通信費等、本ワーキンググループ運営に必要な経費実費分を参加者各自が共同で負担する。

(9) **ワーキンググループの活動予定期間**

本ワーキンググループは、本設置企画書に定める成果物のために、2016年6月1日から2017年5月31日まで活動し、その時点で次年度活動の更新を検討するものとする。

(10) **CSAのグローバル活動等との関連性の有無および内容**

活動期間中、CSA グローバルの Big Data Working Group の日本地域におけるサポートグループとして、グローバルレベルで実施される定期ミーティング、ドキュメント類作成・ピアレビュー、イベント・PR 告知等を積極的にサポートする。

本ワーキンググループにおけるコミュニケーションは、日本語および英語を使用する。